

深日地区福祉委員会通信

=第10号= 2024(令和6)年4月1日(月) 深日地区福祉委員会(連絡先:加門憲文 479-8464)

緑ヶ丘地域「喫茶みどり」がスタート

1・6・8月を除く

毎月・第1日曜日(午前10時～)に定期開催



昨年12月2日、緑ヶ丘地域を対象にした「喫茶みどり」がスタート、44人が参加しました。「身近で気軽に参加できる場が欲しい」の声にこたえて、緑ヶ丘地域の福祉委員(区長、民生委員、ボランティアで構成)が実行委員会を作り、準備してきました。「身近に『ふれあいの場』を、ありがとう」など、喜びと感謝の声が聞かれました。今後は、毎月・第1日曜日の午前10時から、緑会館で定期的に開催されます。(加門憲文)



「こんにちは!お変わりありませんか?」

<キッズ Eye ぼらんていあ> 再スタート



コロナ禍で休止していた、小学生の見守り訪問活動「キッズ Eye ぼらんていあ」が、昨年11月に再開。「こんにちは!」の元気な声に、高齢者も笑顔で迎えてくれます。短い時間ですが学校の様子、昔の地域の様子等の話をします。なごやかで温もりの感じられる“時”が流れます。地区福祉委員や民生委員など、大人による見守り訪問も大切ですが、子どもによる見守り訪問は、元気と笑顔を届けてくれます。世代を超えた小さな交流をきっかけとして、自分たちの地域でつながり支え合う深日地区になればと思います。(高倉雅代)



地震について学び、初期消火、救命訓練などを体験

深日地区「防火・防災研修」に70人以上が参加

2月28日、深日会館にて「防火・防災体験研修」を開催、70名以上が参加しました。

第一部は「地震だ!その時どうする?」、「ふせごう、家具の落下」のDVDで学習。能登半島地震が発生したこともあり、参加者は地震に備えて準備する防災の重要性を学びました。

第二部は、体験研修。①AEDによる応急救護、②簡易ベッドの作り方、③消火器による初期消火、④発電機の起動、⑤「けん引式」車椅子の走行など、数々の訓練を行ないました。参加者は真剣にとりくむとともに、成功した時は大きな歓声もあがり、防災意識の高まりとともに、楽しい時間を過ごしました。(川端 修)



「優しい」の中に「心」という漢字が！

岬中学校 劇団「タルオルム」の観劇(10月30日)

中学3年生対象のマダン劇「そのまなざしのむこう」を鑑賞した。マダン劇とは、演者の回りを観客が囲み、観客も参加できる劇とのこと。

魂に響く歌と太鼓、そして可憐な舞は中学生を魅了。劇は済州島出身のソンヒが大阪で、たくましく生きる姿を描く。字を読めないことをなじられたソンヒは、ひらがな、かたかな、そして漢字を覚えようと決意。会場の中学生に思い思いの漢字を書いてもらう。「優」「始」「口」… 「優」を見せる中学生に、「その中に『心』という漢字あるやろ。この前、習ったとこやねん」と即、語りかける。心に残るマダン劇だった。(中村 勲)



「けん玉できた！」に拍手の輪

深日小学校「昔の遊び体験学習」(11月21日)



小学校1年生はすごい。難しいけん玉を「80回出来た」と白い歯を見せる生徒。一方、初めての生徒もいる。何回しても、はじくばかりで、うまく皿に乗らない。コツを教えるが乗らない。しかし、あきらめない。しばらくすると「できた！」とにっこり。一同拍手の輪。他に、おはじき、てまり、こままわしを体験。最後に白い紙飛行機をみんなで飛ばして歓声をあげた。(中村 勲)



七輪で火起こし

12月14日 深日小学校「昔の暮らし」体験学習

小学校3年生の「昔の暮らし体験学習」に参加しました。昔の暮らしに無くてはならない「七輪」で火を起こし、餅を焼く体験です。ガスや電気が当たり前の現在、私にも貴重な体験でした。

火起こしのコツは、燃えやすい物から入れること。煙で目が痛いと言いながらも、松葉や枝を入れる係、うちわで風を送る係に分かれて作業。炭がおこると「やったア！」の歓声があがります。

その後、体育館で、自分たちがおこした炭火でお餅を焼き、醤油餅にして食べました。その美味しさに舌鼓を打ちながら、子どもたちが考えてきた昔の暮らしについての質問タイムが始まります。「電車がなかった時代は、何で移動していたの?」「洗濯機が無い時は、どのように洗濯していたの?」等々。私には、分からない内容(若い?為)もありましたが、楽しく対話し交流ができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。(松田みゆき)

